

ヴァルタザール・ボギシッチ 1834－1908 その生涯と業績

スターネ・ジヴァノヴィチ
松本英実訳

ヴァルタザール・ボギシッチ Baltazar (Baldo, Valtazar) Bogišić は19世紀南スラヴ^{ユーゴ}の生んだ最も有名な学者の一人であろう。極めて該博な知識をもち、その関心は多岐にわたる。学術活動は多面的で、新しい発想と機動力に富み、明晰かつ総合的な思考を特徴とし、諸々の問題へのアプローチには独自性がみられる。

ボギシッチは、南スラヴ^{ユーゴ}法学の基礎を築いた。彼はまた、モンテネグロ民法典（モンテネグロ一般財産法典）を起草し、これによって国際的な評価を得た。「彼はスラヴ法を学ぶ者だけでなく、不文法を研究する者の間で著名であり、著名であり続けるだろう」（I. Strohal）。ボギシッチの豊かなコレクション（図書館 library、文書館 archives、博物館 museum）は、今日ツァヴタット Cavtat 市の「総監の館 Palace of the Rector」に収められ、我が文化遺産の重要な一部をなしている。

ボギシッチは1834年12月20日、ツァヴタットで生まれた。彼の家は、コナーヴレ Konavle 出自の裕福な家であった。祖父バルド (Baldo) は18世紀末に小村ピチュエティ Pičeti（ムルツイネ Mrcine 村、今日のドゥブラヴカ Dubravka 近郊）からツァヴタットへと移り、商業、農業、海事事業に携わり富を蓄えた。ヴァルタザール・ボギシッチは、幼少時から知的好奇心を発揮し、勉学に打ち込んだ。13歳で生まれ故郷の小学校を終えると、遠洋航海船長カジラリ Kazilari の私立航海学校に学び、次いで中学校科目を教える I. Zafron 司祭の学校に通った。ただし、後者については父ヴラホ Vlaho の意向で、公式には認められなかった。というのも、ヴァルタ

ザールの父は、跡取りの一人息子が家を捨てて出ていくことを恐れて、ツァヴタットを出て高等教育を受けたいという息子の願いを聞き入れなかったからである。

この時期すでに、ボギシッチは相当の蔵書を自分のものとして所有していた。イタリア語とラテン語を解し、ドイツ語とフランス語を用いた。民謡や民話を収集し記録したり、古銭その他の歴史的・文化的オブジェを収集したりしていた。

ボギシッチは父や祖父の仕事に随行してダルマチアの諸都市を訪れ、それぞれの地（特にドゥブロヴニク）の多くの知識人たちと交わった（Niko PucićとMedo Pucić, P. Budmani, A. KazančićとI. Kazančić, P. Franasović等）。青春期のボギシッチは、ダルマチアきっての碩学とされるニコ・プツィッチNiko Veliki Pucić（大プツィッチ1820－1888）と出会った。プツィッチはボギシッチに深い愛情をもって接し、いつも必要な助力を惜しまなかった。注意深く見守りつつ、教育の方向付けを与えた。二人の間には生涯続く友情と信頼が生まれ、ニコの助言は何度もヴァルタザールに影響を与え、重要な決断をする際に決定的にはたらいた。ヴァルタザールの父が急死し（1856年）家族の財産をめぐる複雑な法的問題が生じると、プツィッチはその処理を助け、「ツァヴタットを離れるのに手を貸した」。1858年、ヴァルタザール・ボギシッチはヴェネツィアにいた。最終学年の授業の受講許可を得て、聖カテリーネ高校に通った。翌1859年、彼は正規の学生と共に修了試験に合格した。同年の終わりには、ボギシッチはウィーン大学法学部の学生となり、同時期に、ヨーロッパの様々な大学（ベルリン、パリ、ミュンヘン、ハイデルベルク、ギーセン）で、著名な教授たちの哲学、文献学、法学、歴史学の講義を聴講した。1862年ギーセン大学にて、第三学年の学生として、哲学博士号を取得し、さらに1865年にはウィーン大学で法学政治学博士号を取得した。1863年には、著名な言語学者F. Miklošić教授と政治家M.Ožegovićの推薦により、ウィーン宮廷図書館のスラヴ部門司書に任命され、1868年までこの職にあった。この機会に多くの著名な学者や政治家の知遇を得、親交を深めた（N. Tommaseo, W. Maciejowski, I. V. Sreznjevski, O. Utješinović Ostrožinski, S. Novaković, Đ. Daničić, V. Jagić, F. Rački等）。また、スラヴの歴史、文化に関する知識を深め、スラヴ諸語を勉強した。彼は、ウィーンにおける「スラヴのことばSlovanska beseda」協会の設立に加わり、この協会の活動の一環としてスラヴ図書館設立が構想され実現されて（1865年）、ボギシッチはその館長となった。この時期に、ボギシッチの学術論文の最初の公表

が行われ、ザグレブの雑誌「文学者Književnik」に数篇が掲載されている。同誌は、ある意味で（南スラヴ）^{ユーゴ}科学芸術アカデミーの「研究Rad」誌の前身であるといえるが、ボギシッチは1867年の同アカデミー設立以来のメンバーとなった。1868年から1969年までの2年足らず、ボギシッチはウィーンの兵部省に勤めた。当初はバナト・スリエムのBanat - Syrmia (Srijem) 軍政国境地帯の教育総監兼顧問としてティミショアラ Temesvár (Temišvar) に赴任し、次いでペトロヴァラディン Petrovaradinに移った。その後、同国境地帯の公教育再編成を任務とする委員会のメンバーとしてウィーンで働いた。1869年9月、彼はオデッサ大学のスラヴ法比較史正教授として招聘され、同時に同大学から公法学博士（名誉博士号）を取得した。ボギシッチはオデッサで1870年初から1872年末まで講義を行った。オデッサでも、ウィーンと同様に、スラヴ図書館の開設を果たし、ロシアを去るまでその館長を務め、大いに成功を収めた。1872年末、モンテネグロのニコラ公の要請を受けて、ロシア皇帝アレクサンドル2世は、ヴァルタザール・ボギシッチにモンテネグロ民法典の起草を依頼し、同時に、ロシア政府の法律顧問に任じた。1873年春から1888年までボギシッチはほぼ中断なくこの任務に当たり、1875年からはパリ（71, Rue des Saints Pères）に本拠を据えてこれに取り組んだ。1877年ロシアがトルコに対して開戦すると、ロシア政府はボギシッチをブルガリアへ派遣し、民事局で同地の新しい司法制度を確立する仕事に当たらせた。同年秋に任務が完了すると、ボギシッチはパリに戻った。

モンテネグロ民法典の第一草案は1880年にツェティニェ Cetinje の国務会議に提出された。このときボギシッチはロシア国家正式顧問（Russian Real Counsellor of State）の称号を与えられた。民法典の第二読会は1882年モンテネグロ公の使節の前で行われた。最後に第三読会が君主の面前で行われた後、1888年3月25日、君主が直々にモンテネグロ公国一般財産法典を公布した。同法典は同年7月1日より施行された。然る後にボギシッチはサンクトペテルブルクに帰還し、1890年の初めに退職を願い出た。公務から解放されたボギシッチは、以前から長らく手掛けていた研究を進め、また新しい研究にも着手した。しかし、ニコラ公からのたつての願いを受けて、ボギシッチは1893年にモンテネグロの司法大臣となり、新たな任務を帯びた。その後6年間、法典の適用の実際を追跡調査し、かなりの数にのぼる修正を加えた法典第二版を準備した（1898年3月25日施行）。その後は公務やあら

ゆる義務から解放され、パリに戻ったボギシッチは、研究とその成果の出版に励んだ。不慮の死が彼を襲ったのは、1908年4月24日、持病の療養のためにウィーンから故郷へ戻る途中、リエカ Rijeka においてであった。ツァヴタットの St. Rochus 墓地に埋葬された。

ボギシッチの活動は多産かつ多様であった。学術研究は実り多く、特に南スラヴの習俗・慣習 (common law) と立法史の研究、民族誌学的、政治的・歴史的研究が豊かにあり、さらに多岐にわたる収集活動等がある。

その活動には二つの大きな特徴がある。一つは際立ったスラヴ志向であり、いま一つは歴史法学派 (プフタ、サヴィニー、ポスト) の実証的立法学の立場、ボギシッチが「慣習法 (学)」と呼んだ民族学的法学の態度である。スラヴ諸民族に共通する法の諸原則が存在し、これがスラヴというものを基礎づけるという考えを掲げて、ボギシッチは純粹に法学の分野でスラヴ法というものを、一つのまとまった法として、研究した最初の人であった。彼は南スラヴ科学芸術アカデミー (JAZU) の下で慣習法学研究を進め、この協働は長い間、彼の晩年まで続いた (1867 - 1904)。ボギシッチの重要な業績の殆どすべてが同アカデミーから出版されている。最初の概論『スラヴ人の慣習法を収集する重要性について』はまず1866年「文学者 Književnik」誌に分載された後、一年後に南スラヴ科学芸術アカデミー (JAZU) から『スラヴ慣習法について』というタイトルで、アカデミーによる初期刊行物の一冊として公刊されている (ザグレブ、1867年)。同年、アカデミーは352の質問項目からなる『民族の生ける慣習法を記述するための指針』を出版し、南スラヴ諸国全体に配布した。集められた回答はボギシッチが編集し、導入部を付して『今日のスラヴ慣習法集—南スラヴ各地域からの回答』 (ザグレブ、1874年) として出版した。しかし、慣習法についての本は残念ながらこれが最初で最後であった。後にロシア (特にカフカス)、モンテネグロその他の地域で集められた膨大な資料は出版の機会を得ずに終わった。

アカデミーはまた、南スラヴの地で書かれた法の記録を収集し公刊するというボギシッチの計画を採用した。ボギシッチは『南スラヴ法史集成 *Monumenta historico-iuridica Slavorum meridionalium*』の公刊を開始し、その最初として文献大要『南スラヴにおける成文法について I. 独立国における最高立法権によって公布された法律について』を上梓した (ザグレブ、1872年)。同書では、南スラヴ

の立法法源を明らかにしつつ、南スラヴの立法史を概観している。ラゲーサ（ドゥブロヴニク）の1272年都市法についての最初の概論は『ラゲーサの都市法』（1894年）としてすでにパリで公刊されていたが、ボギシッチはコンスタンティン・イレチコ Konstantin Jirečko と共同で、同法の校訂版をアカデミーの上記シリーズの一卷として1904年に出した。

アカデミーの出版物の中にはほかにもボギシッチの著作がある。例えば、『古きラゲーサの民法典（家族法）の特徴』（JAZU「Rad」誌、1868）、『Petar Zrinski, Fran Krsto Frankopan, Ferenc Nadasdy の陰謀』についての、彼がフランスの文書館で発見した歴史資料（ザグレブ、1888）などがある。ボギシッチの関心の中心は、家族、ザードルガ Zadruga [バルカン固有の大家族制度]、相続法にあった。『セルビア人、クロアチア人農民における inokosan と呼ばれる家族形態について』（ブリュッセル、1884年）および『法制度における家族と相続財産の占める位置』（ベオグラード、1894年）の研究によって、ボギシッチはザードルガと単大家族との間に何ら相違がないことを論証し、ザードルガは全くスラヴ独自の制度であり、民衆の生活が外国の影響を受けずにそのままのあるべきかたちを維持するためには、ザードルガの法的原則が維持されなければならないことを力説した。

ボギシッチの民族学的研究とスラヴ民族、わけても南スラヴ人の多様な文化形式への関心は、慣習法と密接に結びついている。彼の収集した膨大かつ貴重な民謡・民話・格言の資料の中からは、130篇の民衆叙事詩（bugarštica [一行が10音節からなる民衆詞の形式]）が『沿岸地方ほかからの古い記録による民謡について』という表題で出版された（ベオグラード、1878年）。

モンテネグロ法典に具体化された彼の法理論については、ボギシッチはすでにオデッサ大学就任講義『スラヴ法史の学術的發展について』（ペトログラード（サンクトペテルブルク）、1870年）において明らかにしていた。これによれば、「まず民族の法慣習を記述しなければならない。これを他の民族の慣習と比較したうえで、最後にすべてを勘案して法律を作るべきである」。モンテネグロ法典は法的な諸問題の扱い方の新しさによって、広く学界と一般の関心を喚起した。ボギシッチは、遠くローマ法に遡る諸ルールを、一般によく行われているようには用いなかった。彼は人々の生活の法的なあり方からかけ離れた法典を作ろうとはしなかった。その反対に、人々の中に本当に生きている書かれざる法を最も重視した。これに

よって彼は国際的な評価を博した。モンテネグロ法典は五つの言語に翻訳された（フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語、スペイン語）。同法典を検討する文献は数多く、全てをここで挙げることはできない。法律起草者としてのボギシッチは、言語は法典化に不可欠な条件であり、また法律の実効的適用に欠かせないものであると考え、ことばに関する研究philologyを特に重視した。スラヴ人に法律用語がないことを認識して、ボギシッチは我々の法律用語を飛躍的に豊かにした。ことばに関する論考をいくつか発表している。『法律における専門的名称』（スプリット、1876年）、『立法における技術的用語について』（サンクトペテルブルク、1890年）、『再び法における専門的表現について』（ザグレブ、1900年）。かれは闇雲な翻訳や外来語の採用に一貫して反対した。用語は一般の人々に理解されねばならず、この理由から民衆の生きた言葉の中に用語を求めなければならない、とボギシッチは考えた。

ボギシッチは複数のアカデミーや学会の会員であった（南スラヴ科学芸術アカデミー-JAZU（ザグレブ）、セルビア学識協会、後にセルビア王立アカデミー（ベオグラード）、チェコ科学アカデミー（プラハ）、人文・社会科学アカデミー（パリ）、ダルマチア文学協会（ザダル）、人類学民族学協会（モスクワ））。また多くの大学にスラヴ学科の教授として呼ばれ（ザグレブ、ベオグラード、ワルシャワ、オデッサ、モスクワ）、勲章を授与された（フランス共和国レジオン・ドヌール（コマンドゥール）、モンテネグロ・ダニーロ大十字章、イタリア王冠大十字章等）。ボギシッチはわが国で有数の愛書家であり収集家であった。すでに学生時代にスラヴ諸族の、少なくとも南スラヴ諸族の文化、歴史の領域で重要なものを網羅的に収集する施設、すなわち図書館兼博物館を構想していた。このような汎スラヴ的拠点が必要であることを、論考『ザグレブ博物館の再編』（ザグレブ、1866年）および『スラヴ博物館』（ノヴィ・サド、1867年）の中で論じている。

彼の尽力で、スラヴ図書館がまずウィーンに、次いでオデッサに開設された。その活動の中で、ボギシッチはいくつかの報告を書いている。彼の構想への反応が芳しくないことが分ると、ボギシッチは自ら、特に旅行の先々で、南スラヴの文化と歴史に重要なあらゆるものを収集し続けた。ボギシッチは大いに旅をし、「ヨーロッパの国で私が旅をしなかったところは殆どないし、私が訪れなかったスラヴ民族はない」と記している。彼は、南スラヴの珍しいオブジェを集めたおびただしい量の、

豊かで多様なコレクションを形成した。その学術的文化的意義は極めて大きい。

ボギシッチ図書館は約15000巻の書籍を蔵し、その中にはスラヴの揺籃印刷本コレクション（65巻）と165の写本を含む。文書館としては、民間伝承の詩、民話、格言のコレクション、慣習法に関する資料、人類学的研究のメモ、法制史・政治史に関する資料と文書等が所蔵されている。書簡は膨大であり、ボギシッチが公的・私的に交信した1000以上の相手（個人、団体、学術機関など）から受領した10000通を超える手紙が保存されている。さらにボギシッチは図版の集成（8100点以上）を有し、これは我が国で最も豊かなコレクションの一つに数えられる。古銭のコレクションも充実している（3000点を超える）。ボギシッチは民族誌学に資するオブジェも収集し、法的シンボル、工芸品、武具等がこれに含まれる。また、ツァヴタットでのローマの遺物収集とエピダウルム発掘のための協会の設立なども主導した。

ボギシッチが急死したとき、唯一の相続人は妹のマリヤ・ボギシッチ＝ポール Marija Bogisic-Pohlであった。マリヤは兄の遺品をすべてバリからツァヴタットへ移し、1909年に彼らの生家にボギシッチ博物館を設立し、さらに1912年には特にこのために購入した家屋（現在のKlaiceva通り2番地）にボギシッチ図書館を開設した。1954年、ボギシッチの遺産はユーゴスラヴィア科学芸術アカデミーの管理下に移された。1958年、ボギシッチ図書館とコレクションは、16世紀初頭に立てられ、修復されたルネッサンスの館、ツァヴタットの総監の館に移され、現在に至っている。

ボギシッチ生誕150年を記念して、ユーゴスラヴィア科学芸術アカデミー管下ドゥブロヴニク歴史学研究所の主催する「ヴァルタザール・ボギシッチ 1834－1908」の展示は、ボギシッチの生涯と業績についての基本的な情報を提供することを目的とする。展示はすべてボギシッチ自身の所蔵したものからなる（死後にコレクションに加えられたヴラホ・ブコヴァツ Vlaho Bukovacの絵画2点（「ツァヴタットのカーニヴァル」とマリヤ・ボギシッチ＝ポールの肖像画）を除く）。展示スペースの制約と展示物の性質から、展示内容は包括的なものではないが、ボギシッチのできる限り完全で、興味深いイメージを伝えられるように努めた。展示は、図書館、文書館、博物館の多様な所蔵品の中から選ばれた資料、手稿、著書、ボギシッチについて書かれた資料、書簡、写真、絵画、版画、工芸品、日用品等々である。公的、学術的活動を伝えるものに加え、よりプライベートな品々も、ボギシッ

チを取り巻く時代と人々、環境の雰囲気伝えるために展示した。展示品の選択には十分意を用い、総監の館の特徴ある空間に適するよう絵画の配置にも工夫を凝らした。ガラスケースの展示物（主要な書類、雑誌、手稿、写真の大部分および若干の書簡）は、年代順にまとめて陳列した。勲章とモンテネグロ法典の関連資料はこれとは別のケースに配置した。ボギシッチや法典についての二次文献はさらに別にまとめて示した。その他の展示物は室内空間と調和するよう配置した。揺籃印刷本や写本、ボギシッチの蔵書は点数を限って展示している。

この展示とともに、第一期の常設展示が開始されることになる。ボギシッチの文化遺産を示す新たな展示がこれに続く予定である。収集家ボギシッチの全体像を伝え、収集の豊かさを示すためには、この収集家が我々に残したすべてについて、より十全な紹介が必要とされよう。その実現をみるまでの間は、テーマを限定したより小規模な特別展を重ねていくことになろう。

（訳者付記）

本稿は、Stane Đivanović, Baltazar Bogišić 1834-1908, Cavtat, Zavod za povijesne znanosti IC-a JAZU, 1984./ *id.*, Zrinka Dusper tr., Baltazar Bogišić 1834-1908 Vie et oeuvre, Institut de sciences historiques du Centre de recherches de l'Academie Yougoslave des Sciences et des Arts à Dubrovnik, Collection Baltazar Bogišić à Cavtat, 1985./ *id.*, Ivan Gotthardi Skiljan, tr., Baltazar Bogišić 1834-1908 Life and Work, Institute for Historical Sciences of the Yugoslav Academy of Sciences and Arts in Dubrovnik, Baltazar Bogišić Collection in Cavtat, 1985.の翻訳である。ボギシッチ・コレクション（図書館・文書館・博物館）のプロローグとして書かれたオリジナルはクロアチア語であるが、本訳稿は主としてフランス語および英語版からの翻訳である。仏語版、英語版には若干の相違が見られ、両者を勘案したうえで、訳稿を東京大学三谷恵子教授（スラヴ語・スラヴ文学）にみて頂いた。また翻訳家斎藤かぐみ氏にも多くのご教示を頂いた。記して厚くお礼申し上げる。もとより誤り等は訳者の責任である。英語、仏語のほかにイタリア語、ドイツ語への翻訳がある¹⁾。訳文中の〔 〕は訳者による注記である。

1) ドイツ語版はStane Đivanović, Ivan Gotthardi Škiljan, tr., Baltazar Bogišić 1834-1908

ヴァルタザール・ボギシッチについては、日本語や英語での情報が極めて乏しいため、基本的な理解の出発点として本稿を訳出することにした²⁾。

著者スターネ・ジヴァノヴィチ Stane DIVANOVIĆ氏は、1952年生まれ、ザグレブ大学にて美術史・比較文学を学び、1977年、ユーゴスラヴィア科学芸術アカデミー管下ドゥブロヴニク歴史学研究所ヴァルタザール・ボギシッチ・コレクション（在ツァヴァタット）主任となった。1981年博物館学芸員資格取得、1985年より上級学芸員、2012年博物館学修士（ザグレブ大学）。現在クロアチア・アカデミー（Hrvatska Akademija Znanosti i Umjetnosti (Croatian Academy of Sciences and Arts) 社会科学部門、ドゥブロヴニク歴史学研究所（Zavod za povijesne znanosti u Dubrovniku (Institute for Historical Sciences in Dubrovnik)）所管ヴァルタザール・ボギシッチ・コレクション（Musej i zbirka Baltazara Bogišića u Cavtatu (Museum and Collection of Baltazar Bogisic in Cavtat)³⁾のディレクターである。“Fine art in the polyhistorical context of Baltazar Bogišić Cabinet”を研究テーマ

Sein Leben und Werk, Cavtat, 1987。なおイタリア語版について訳者は未見である。英語版に対する書評として、Martyn Rady, *The Slavonic and East European Review*, vol. 87, No. 2, April 2009, p. 368-369がある。

- 2) ドイツ語では Werner G. Zimmermann, *Valtazar Bogišić 1834-1908. Ein Beitrag zur Südslavischen Geistes- und Rechtsgeschichte im 19. Jahrhundert*, Franz Steiner Verlag GMBH, Wiesbaden, 1962.がある。日本語の文献としては、法学協会雑誌「雑録」20巻3号302－305頁、4号391－395頁、5号454－455頁（L'historique d'une codification (extrait d'un mémoire manuscrit de V. Bogisic), *Revue de Droit international et de Législation comparée*, 1901の翻訳・紹介）、バルタザール・ボギシッチ（難波譲二訳）「モンテネグロ民法典について——その制定について採用された原則及び方法に関する小論——」京都大学教養部政法論集、第10号（1990年）79－93頁（V. Bogisic, Quelques mots sur les principes et la méthode suivis dans la codification du droit civil au Monténégro. Lettre à un ami, 2^e éd., Paris, 1888）、前田達明「モンテネグロ財産法」書斎の窓238号（1975年）11－13頁（『民法随筆』成文堂1989年、22－26頁）、高橋眞「バルタザール・ボギシッチとモンテネグロ財産法」書斎の窓384号（1989年5月号）21－26頁、高橋眞「バルカン地域における慣習法研究とモンテネグロ一般財産法典について——デュリツァ・クリスティッチ教授講義要旨」京都大学教養部政法論集、第10号（1990年）67－77頁、瀧井一博『明治国家をつくった人びと』講談社現代新書、2013年、209－216頁。なお、『法律学小辞典』第5版（有斐閣2016年）「ボギシッチ」も見よ。

- 3) http://info.hazu.hr/en/about_academy/units/the_institute_for_historical_sciences_in_dubrovnik/the_museum_and_collection_of_baltazar_bogisic_in_cavtat_en/ (2017/1/4 8:37参照)

とする。公表された業績として以下のものがある。

Antonio di Jacopo (Antonio iz Luke, Antun Jakovljević, Antonio da Lucca) , slikar; Antun iz Padove (Antun Padovanac, Antonius Patavinus, Patoveno) , graditelj; Baletin, Pasko (Paskoje) , urar, u: Hrvatski biografski leksikon (ur.) Nikica Kolumbić, 1, Zagreb, JLZ, 1983, 194-195, 197, 393.

Baltazar Bogišić 1834-1908., Cavtat, Zavod za povijesne znanosti IC-a JAZU, 1984 Brošura + deplijan stalnog izložbenog postava (engl., franc. i tal. prijevod, Cavtat, 1985; njem. prijevod, Cavtat, 1987) .

Priredbe u povodu 150. obljetnice rođenja Baltazara Bogišića; Bibliografija radova, rasprava i članaka o Bogišiću u god. 1984-1985., u: Spomenica posvećena akademiku Baltazaru Bogišiću: u povodu 150-e obljetnice rođenja, (ur.) Hodimir Sirotković, Zagreb, JAZU, 1986, 55-59, 60-63.

Proslava 150. godišnjice Bogišićeva rođenja, u: Anali Zavoda za povijesne znanosti IC-a JAZU, XXII-XXIII, 1985, 237-238.

Restaurirani predmeti Bogišićeva muzeja i biblioteke, 1978-1988., Cavtat, ZBB JAZU, 1988. Deplijan povremene izložbe.

Program obnove i prezentacije objekata Zbirke Baltazara Bogišić HAZU u Cavtatu, u: Informatica museologica, 27/1-2 (1996) , 40-45. Popis važnijih rukopisnih inventara Bogišićeve ostavštine na str. 43-45.

Zbirka Balda Bogišića – Cavtat, u: Hrvatska akademija znanosti i umjetnosti kroz fotografije, (ur.) Slobodan Kaštela, Zagreb, HAZU, 2007, 46.

Strajnićeva muzeološka uzgrednica – izrada Sistematičkog pregleda Bogišićeve grafičke zbirke u Cavtatu, u: Strajnićev zbornik: Zbornik radova povodom 120. godišnjice rođenja i 30. godišnjice smrti Koste Strajnića, (prir.) Ivan Viden, Dubrovnik-Zagreb, IPU Zagreb i Matica hrvatska Dubrovnik, 2009, 213-231.

Bukovčeva Konavoka u grafičkoj verziji pariške radionice Rougeron-Vignerot & Cie – geneza i morfologija, u: Anali Zavoda za povijesne znanosti HAZU u Dubrovniku, 49 (2011) , 209-226.

Postavljanje spomen-ploče Baltazaru Bogišiću u povodu 175. obljetnice rođenja. Pariz, 18. prosinca 2009. (tekstovi: Stane Đivanović, Claude Grbeša, Franjo

Šanjek) , u: Anali Zavoda za povijesne znanosti HAZU u Dubrovniku, 49 (2011) , 335-340.

Vrijeme Bogišićeva odlaska i povratka - muzeološki aspekt kulture sjećanja: u povodu 180. obljetnice rođenja Bogišićeve sestre Marije Bogišić Pohl (Cavtat, 1837-1920) , katalog izložbe, Zbirka Balda Bogišića u Cavtatu Zavoda za povijesne znanosti HAZU Dubrovnik, katalog izložbe (u tisku) .

本訳稿は青山学院大学判例研究所2015年度重点課題プロジェクト「ボギシッチおよび彼が起草したモンテネグロ一般財産法典の研究」(代表大山和寿准教授)の研究成果の一部である。同プロジェクトは、判例研究所2014年度総合比較プロジェクト「ミクスト・リーガル・システム論から見た慣習法の総合的比較研究」(代表松本英実)および2016年度総合比較プロジェクト「19世紀における法典化の比較法的・言語学的再検討——モンテネグロ一般財産法典を手がかりとして」(代表大山和寿准教授)と密接に関連している。一連の共同研究の成果として本稿と関連するものに以下のものがある。松本英実「判例研究所プロジェクト2014年度総合比較プロジェクト『ミクスト・リーガル・システム論から見た慣習法の総合的比較研究』によるセルビア・クロアチア・モンテネグロ訪問」(青山ローフォーラム4巻1号(2015年)143－179頁、同「広義ミクスト・リーガル・システムと日本法——『ミクスト・リーガル・システム論から見た慣習法の総合的比較研究』のアプローチとその成果」(青山ローフォーラム4巻2号(2016年)1－10頁)、同「ボワソナード／ボギシッチ書簡——ボギシッチ博物館所蔵資料の紹介(1)」(青山ローフォーラム4巻2号(2016年)11－35頁)、同「ボギシッチによる日本民法典編纂への助言(松方正義・ボギシッチ会見)——ボギシッチ博物館所蔵資料の紹介」(青山法学論集57巻4号(2016年)441－466頁)。他に関連する論文として岡孝「明治民法起草過程における外国法の影響」(東洋大学国際哲学研究センター編『＜法＞の移転と変容』国際哲学研究別冊4(2014年)16－33頁)、シーマ・アヴラモヴィチ・松本英実「ボギシッチと日本民法典——セルビア、モンテネグロと日本法の接点」(青山法学論集57巻1号(2015年)61－70頁)、松本英実「グローバル化と比較法」(法律時報87巻6号(2015年6月号)86－91頁)がある。

(追記)

本稿は、青山学院大学判例研究所2015年度重点課題プロジェクト「ボギシッチおよび彼が起草したモンテネグロ一般財産法典の研究」による研究成果の一部である。